

[資料]

英語科における記憶の課題
—英単語の記憶方法に着目して—

The problems of memorization from the view of English teaching
—Focus on the ways of memorizing English words—

桃 坂 七 海
Nanami MOMOSAKA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
中等教科教育高度実践力プログラム

(2023 年 1 月 31 日受理)

変わりゆく社会の中、子どもたちの学習歴や生活も多様化し、それぞれに適応する学習方法にも違いが生じる。学習の進め方を自ら調整する「学びに向かう力」を身につけるためには、現在の一律で一方的な指導ではなく、子どもが自己に適応する学習方法を知ることが求められる。そこで、本稿で扱う調査は中学生が自己に適応する学習方法に意識を向けることを目的として、英単語の記憶方法に着目した研究を行った。生徒は、方法 A「英単語を分解する方法」と方法 B「ストーリーを作って覚える方法」を実践し、それぞれを比較するなど自己分析した。

結果として、方法 B が方法 A より自分に「あっている」と選択する生徒が多く、1 週間後の記憶にも効果的な影響を与えたことがわかった。生徒の中には、生徒の選択と稿者の選択がマッチしないものもあり、2 つの方法の効果や問題を明らかにすることができた。

キーワード：英単語、記憶、語源、エピソード記憶、自己適応、自己分析

1 はじめに

学習とは思考の枠を構築することである。生徒の学習方法は個々に異なる。それまでの学習歴や生活の様子などにも影響を受け多様化している。しかし、現実の学校教育では一律かつ、一方的な指導を受けて、自己に適応する学習方法を知らないままとなっていることは多いのではないか。自己に適応する学習方法を知らないということは、学習に時間をかけすぎるなど非効率的な学習になるため、その教科の学習から遠ざかる結果を招きかねない。そのため、生徒が自己の学習について自覚し、学習方法を選択できる必要がある。

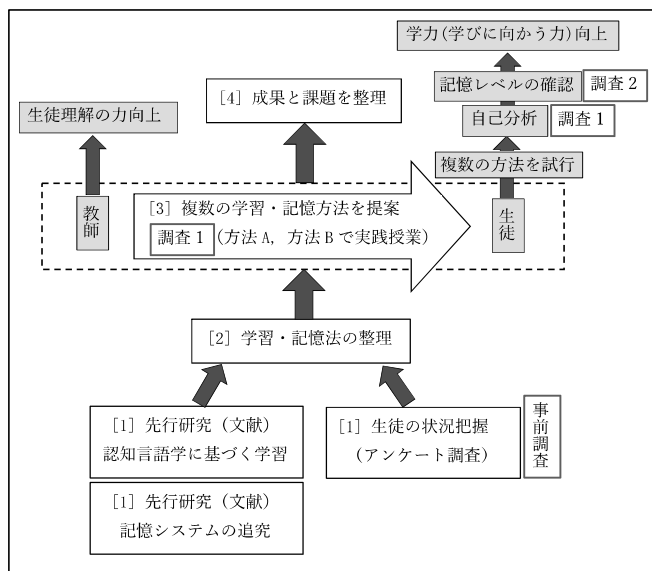
また、学力観について『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』では、目指すべき資質・能力の 1 つとして「学びに向かう力」が掲げられている。

「学びに向かう力」とは、「主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力、自己の感情や行

動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力」と示されている。「学びに向かう力」の育成に関して『教育課程部会における審議のまとめ(令和 3 年)』には、「学習の進め方を自ら調整していくことができるよう指導することが大切」と示されている。学習の進め方を自ら調整することに、自己に適応する学習方法を知ることが含まれていると考える。自己に適応する学習方法や自己の思考のプロセスを知っていることで、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするなど学習を調整できるためである。つまり、自己に適応する学習方法を知るとは、内容を理解するだけでなく、学びに向かう力の育成にもつながり、それも含めた学力の育成になると考える。

そこで本研究は、生徒の自己に適応する学習方法に意識を向けることを意図し、英語学習における英単語の習得を対象とした研究を行う。今回、英単語の記憶の方法の調査を行った。これは〔資

料 1]「研究全体図」の「[3] 複数の学習・記憶方法を提案」にあたる（[資料 1] 中に該当箇所を赤字で記載）。実践授業で行った自己分析シートや、実践授業 1 週間後に行った確認シートの結果をもとに分析をしていく。



〔資料 1〕「研究全体図」

2 実施した調査(英単語の記憶の方法)について

(1) 調査概要

調査は、事前調査 1 種、本調査 2 種の合計 3 種である。事前調査は「アンケート調査」、本調査は「2 つの記憶方法 A・B 調査」と「個の記憶状態調査」である。3 種の調査の関係性は、[資料 1]「研究全体図」に示す。

事前調査として、普段どのような方法で英単語を記憶しているのかを知るために「アンケート調査」を行った。これについて、本稿では【事前アンケート】と記載する。

本調査の「2 つの記憶方法 A・B 調査」では、生徒が学習・記憶方法に意識を向けるという経験をするために、2 つの英単語の記憶方法を実践する。その後、生徒が自己に適応する学習・記憶方法に意識を向けるために、それぞれの方法に対して自己分析を行う。これについて、本稿では【調査 1】と記載する。

本調査の「個の記憶状態調査」では、生徒の記憶状態や、生徒の自己分析と教師の見解の違いを調査するために、英単語の日本語訳を思い出せるのか、単語記憶テストを行う。これについて、本稿では【調査 2】と記載する。

(2) 調査の実際

① 【事前アンケート】と結果

2022 年 7 月 13 日に英単語の記憶方法アンケートを行った。これは [資料 1]「研究全体図」の「生徒の状況把握」にあたる。調査対象は、公立中学校第 2 学年の男子 14 名、女子 14 名、計 28 名の生徒である。アンケートは、生徒が自然に「自分の記憶方法」について、思い出すことができることを意図した。そこで普段どのようにして英単語を暗記しているのかを、選択したり、記述したりできるように工夫した。例えば、「書きながら覚えている人の工夫」を問う場合、生徒の日常を想起させるような具体を選択項目に入れた。「紙やノートに英単語のみを複数回書く」、「机の上で手を動かしながら空書きする」、「1 回だけ英語と日本語を書いて覚える」などである。

【事前アンケート】の結果は次の通りである。「自分なりの英単語の記憶方法があるか」という質問項目に対して、[資料 2] の結果になった。割合は選択者数から全体 28 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。

選択肢	選択者数	割合
「ある」	14 名	50.0%
「ない」	8 名	28.6%
「わからない」	6 名	21.4%

〔資料 2〕事前調査結果 1

自分なりの記憶方法が「ある」と答えた 28 名中 14 名に対して「その記憶方法はあっていると思うか」と質問をした。これに対して、14 名中 12 名が「今の記憶方法はあっていると思う」と答えた。加えて「なぜその記憶方法を行っているのか」と質問をした。14 名中 10 名が「何となくそうしている」、「その方法しか知らない」と答えた。

このことから、次の 2 点がわかった。1 点目は、生徒には「自己流の記憶方法」があることである。2 点目は、「自己流の記憶方法」は明確な理由や根拠がないまま、自分に「あっている」と思う生徒が多いことである。これは、これまで出会ってきた記憶方法しか知らないことや、複数の記憶方法から選択・実践した経験がないことが影響していると考えられる。言い換えれば、自分に合っているかどうか判断する機会がこれまでになかったということである。これに加えて、生徒の経験の少なさだけでなく、授業者である教師の授業展開にも問題があったと考えられる。教師自身にもこれまでに経験したり、学んだりした記憶の方法があ

る。その方法が少なければ、もしくは、複数の方法を知らなければ、必然的に授業で生徒に提案できる方法も少なくなる。これらのことから、本研究である複数の学習・記憶方法を実践することに意義があると考えた。

次は、【事前アンケート】の他項目の内容についてである。複数選択可能な問いの回答は、[資料 3] の結果になった。

選択肢	選択者数
「書きながら」覚える	25 名
「見て」覚える	23 名
「声に出して」覚える	23 名

【資料 3】事前調査結果 2

この事前調査からは、28 名中 25 名、28 名中 23 名とかなり多くの生徒が「書く」「見る」「声に出す」を組み合わせて英単語を覚えていることがわかる。特に多かった具体的な組み合わせは「紙やノートに英単語のみを複数回書く」と「ローマ字読みをする」であり、これらを選択した生徒は 28 名中 14 名であった。

事前にアンケートに挙げられた方法以外で、自分特有の記憶方法があるのか答える記述式の問いも行った。4 名の生徒が「タイピングをする」と記述した。これは、1 人 1 台端末所持や電子機器の普及から、授業中や課題で「紙やペンで書く」作業が少なくなりタブレットで学ぶ機会が多くなった影響だと考える。

② 調査対象と調査内容

ア) 調査対象

中学校第 2 学年の男子 11 名、女子 11 名、計 22 名の生徒である。欠席者 6 名である。

イ) 調査内容

実施した調査は 2 種類である。以下に示す。

【調査 1】2 つの記憶方法 A・B を調査

- ・実施日：2022 年 12 月 7 日
- ・[資料 4]「自己分析シート」を使用
- ・〈方法 A〉：
 - 「英単語を分解する方法」
 - 対象の単語：company, researcher, performance
- ・〈方法 B〉：
 - 「ストーリーを作って覚える方法＋エピソード記憶」
 - 対象の単語：deep, scream, huge, expensive, prefecture, local, treasure, whale, wizard, customer

〈方法 A〉は、英単語の語源の意味を覚えることで連想的に語彙を増やすことができる。加えて語源から意味を考えたり、推察したりすることから単語のスペルミスを生じさせにくいという利点があると考え、提案した。

〈方法 B〉は、この活動自体がエピソード記憶になるものである。また、単語の意味を忘れにくく思い出しやすいという利点がある。活動内容は、英単語の発音やローマ字読みを活用して物語を作り、他者と共有する。

こうした 2 つの異なる方法を生徒が実践後、それぞれの方法が自己に適応するのかを、[資料 4]「自己分析シート」に生徒が記入したものから分析する。

記憶方法 自己分析シート（例）
2 年 3 組 番 名前：

あなたの記憶方法（2022 年 7 月 13 日水曜日のアンケートにて）

「見て」覚える・・・単語帳をひたすら見て覚える。緑マーカーを引いて、赤シートで覚える。
「声に出して」覚える・・・声を出せる場合は声を出して、複数回、発音する。
場所・・・自分の部屋（ベッドなどの、リラックスした場所で）
自分の記憶方法・・・un や re など接頭辞を利用して覚える。英語の構成で覚えている。
ea, ou, ou など組み合わせての読み方がある？ものなどの読み方を意識する。

実践した記憶の方法 A 「英単語の語源に着目した方法」

【問 1】なんとなくだけど自分にあっていく気がする。○してください。
とても思う どちらかというと、そう思う どちらかというと、思わない 全く思わない
（今後やってみよう）

【問 2】なぜそう思うのか、書ける人は書いてください。

実践した記憶の方法 B 「ストーリーを作って覚える方法」

【問 3】なんとなくだけど自分にあっていく気がする。○してください。
とても思う どちらかというと、そう思う どちらかというと、思わない 全く思わない
（今後やってみよう）

【問 4】なぜそう思うのか、書ける人は書いてください。

【問 5】方法 A と方法 B は、（どちらかというと）どちらが自分にあっていく？ ○してください。

方法 A 方法 B

【問 6】最後に、今日の授業中「私（機械）にこうして欲しかったなあ」、「この発音意味わからなかったなあ」など伝えたいことや困ったことがあったらぜひ書いてください。皆さんの思いが、次につながります（^ ^）

※ ここで記入された内容は、成績や評価などとは一切関係ないので、皆さんが思ったままに答えてください。

【資料 4】自己分析シート

「自己分析シート」内容についてである。「自己分析シート」では、2 つの記憶方法を比較したり、生徒の適応度合いを知ったりするために、質問や選択肢に比較・適応度を捉えるように設定した。具体的には、次のようにしている。

質問項目：「それぞれの記憶方法が自分にあっている気がする」（この質問は、2つの記憶方法を比較したり、適応度合いを知ったりするため。）

選択肢：「とてもそう思う」 / 「どちらかという
と、そう思う」 / 「どちらかという、思わない」
 / 「全く思わない」

質問項目：「なぜその選択をしたのか」（この質問は、方法の選択に対してどのような考えがあるのか知るため。回答は自由記述。）

回答：自由記述

質問項目：「〈方法 A〉と〈方法 B〉はどちらが自分にあってそう？」（この質問は、これは2つの記憶方法を比較したり、教師と生徒の選択判断の違いを考察したりするため。）

選択肢：方法 A / 方法 B

【調査 2】個の記憶状態を調査

- ・実施日：2022 年 12 月 14 日
- ・[資料 5]「確認シート」を使用

【調査 2】で活用した「確認シート」は以下のものである。

英単語 確認シート (例)		2年3組 番 名前：
★この結果は成績などには反映されません。正しい(正解の)日本語訳は思い出せないけど、「ああ、なんとなくこんな言葉だったな」、「〇〇さんとこんな話をしたな」、「分解した英単語の意味全てはわからないけど、一部は思い出せるなあ」と思ったら、その頭の中で思い出したものを書いてください。全く思い出せないものは○を書いてください。この確認シートの内容を研究に活かしたいと思いますが、皆さん個人を特定するようなことは一切ないので、安心して書いてください。お願いします！		
	English	日本語
例	attest	【正しい日本語訳「証明する」が思い出せない場合の書き方の例】 あ、テストって桃坂先生は言っていたことは覚えてるけど、その後は思い出せません。←このような書き方で OK!
1	company	
2	researcher	
3	performance	
4	uniform	
5	recycle	
6	local	
7	scream	
8	treasure	

【資料 5】「確認シート」

「確認シート」内容についてである。「確認シート」の単語は生徒の個の記憶状態を調べるために、扱っている単語が異なるように作成した。

まず、「確認シート」の1-5の5単語は1. company, 2. researcher, 3. performance, 4. uniform, 5. recycle で全生徒同じである。これらは、〈方法 A〉で扱った英単語である。特に、視覚情報が記憶に影響を与えるのかを調べるために 1. company, 2. researcher, 3. performance は、[資料 6]「方法 A プリント」に記載し、設定した。1-3 の単語と比較するために、4. uniform, 5. recycle は口頭で説明した。

次に、「確認シート」の6-8の単語数は生徒の学習状況によって変えている。これは〈方法 B〉で作成したストーリーの数が生徒によって異なるためである。例えば、2 単語のみのストーリーを作成した生徒は、「確認シート」で記入する単語が、〈方法 A〉の5単語に2単語加えた7単語である。3 単語以上のストーリーを作成した生徒は、「確認シート」で記入する単語が、〈方法 A〉の5単語に3単語加えた8単語である。このように、生徒によって「確認シート」の単語と単語数が異なる。

(3) 単語の記憶についての授業内容

試行する複数の英単語の学習・記憶の方法のうち、実践授業では2つの〈方法 A〉・〈方法 B〉を生徒に提案し、生徒がそれぞれ自己分析した。実践授業の流れは次の通りである。

① 導入段階

導入段階では、自己の学習や記憶に関心を持たせるために、人間の記憶システムについて提示した。その際、ドイツの心理学者 Hermann Ebbinghaus 博士の著書『記憶について-実験心理学への貢献-(1978)』にある「忘却曲線」のグラフを使用した。

② 展開前段

展開前段では〈方法 A〉を実践する。単語を分解することのイメージを生徒が掴むために、英単語の接頭辞、語幹、接尾辞などの語源の仕組みを知る。[資料 6]「方法 A プリント」を使用して、3つの単語 company, researcher, performance の意味を推測する。単語の選出は、未学習範囲の単語で『Here We Go! (光村図書 2022)』の単元 Unit6-Unit7 からである。その後、解説を聞き、3つの単語の語源の特徴を理解する。

方法 A 「英単語の綴りに着目した方法」

英単語を分解して覚える方法である。日本語の漢字のように、英単語のスペルの中に隠れた部品があるようなもの。漢字の意味がわからなくても「い(さんずい)」がついている漢字は水に関係がある」ことを知っていたら、初めて見た漢字でも意味を推測できる。同様に、英単語にもパーツごとに意味がある。

【やってみよう】それぞれ英単語がどのような意味なのか、考えてみましょう。

英単語	分解すると	つなげてみて思いつくこと	どんな意味だろう
company com/pan/y	com	ともに	
	pan	パン	
	y	場所	
researcher re/search/er	re	再び	
	search	探し求める	
	er	人	
performance per/form/ance	per	完全に	
	form	形	
	ance	～こと・もの	

方法 A の GOOD POINT

英単語の文字がたのアルファベットを並べたものではなくて、意味のあるパーツの組み合わせに見える。→ 素に多くの英単語を覚えることができる。

【資料 6】「方法 A プリント」

③ 展開後段

展開後段では〈方法 B〉を实践する。英単語と日本語訳に自分だけの意味づけをする方法についての説明を聞く。例として「attest(訳：証明する)は「あ(=a)、テスト(=test)あるから、この時に自分の努力、先生に証明するぞ」を挙げる。

【資料 7】「方法 B プリント」を使用して、10 単語 deep, scream, huge, expensive, prefecture, local, treasure, whale, wizard, customer のうち 2 単語以上を選び、ストーリーを個人で作成する。単語の選出は、未学習範囲の単語で『Here We Go! (光村図書 2022)』の単元 Unit6-Unit7 からである。生徒がストーリーを作成しやすくするために、名詞や形容詞を中心に選出した。その後、作成したストーリー 2 文を、1 文ごとにペアを変え、交流する。これはストーリーを作成してペアと共有することで、その取り組み自体をエピソード記憶とするため設置した。

方法 B 「ストーリーを作って覚える方法」

英単語とその日本語訳を見て、2 単語を選んで、自分だけのストーリーを作る。【ポイント】情景を思い浮かべる。単語の綴り、単語のローマ字読みを利用して考えてみる。

例えば「attest / 証明する」の覚え方は「あ(=a)テスト(=test)あるから、この時に自分の努力、先生に証明するぞ」
「disperse / 分散する」の覚え方は「This(=dis) pen(=pense)を 2 の 3 の 3 のみんなに分散するよ」

2 クラスメイトに、自分は「こんな覚え方を考えたよ」というのを共有する。【ポイント】自分の顔の中で思い浮かべている映像を相手に詳しく説明する。相手の覚え方に反応する。

English / 日本語	自分の考えた単語の覚え方	クラスメイトの覚え方	画() (横線七画)さん
① deep / 深い			()さん
② scream / 叫び			()さん
③ huge / 巨大な			()さん
④ expensive / 高価な			()さん
⑤ prefecture / 県			()さん
⑥ local / 地元の			()さん
⑦ treasure / 宝物			()さん
⑧ whale / クジラ			()さん
⑨ wizard / 魔法使い			()さん
⑩ customer / 客			()さん

【資料 7】「方法 B プリント」

④ 終末段階

終末段階では【資料 4】「自己分析シート」を使用して〈方法 A〉・〈方法 B〉について生徒がどの

ように考えたのか分析する。

加えて、【調査 2】を実践授業 1 週間後の 12 月 14 日に行う。〈方法 A〉・〈方法 B〉で扱った英単語の個の記憶状態を調査するために、個で異なる「確認シート」を实践する。

3 調査結果について

(1) 全体傾向

① 方法の選択と理由

ア) 【調査 1】の〈方法 A〉の結果

【問 1】「〈方法 A〉が自分にあっている気がする」という質問項目に対して、【資料 8】の結果になった。割合は選択者数から全体 22 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。

選択肢	選択者数	割合
「とてもそう思う」	2 名	9.1%
「どちらかという、そう思う」	9 名	40.9%
「どちらかという、思わない」	11 名	50.0%
「全く思わない」	0 名	0%

【資料 8】〈方法 A〉の調査結果 1

【問 2】「なぜそう思うのか、書ける人は書いてください」という質問項目に対して、記入されたコメントは次の通りである。実際に生徒が記入したものを提示する。以下の枠内に、効果を感じたコメント、効果を感じていないコメントを示す。

- ・ 考えるのが少し難しいけど、1 つ覚えれば、一気にたくさんの英語を覚えられるので、いいなと思った。
- ・ 自分で意味を考えたときに答えに近い単語を思いついた。
- ・ 法則を覚えれば単語の意味を忘れてしまうことが少ないと思った。

〈方法 A〉の効果を感じたコメント

- ・ 分解しても、1 個 1 個の言葉の意味がよく分かっていなかったで自分にあっていないのかと思いました。
- ・ 分解できてもその意味が分かりにくくて、パツと思いつかばない。
- ・ 分解する作業が面倒臭いと思ってしまう。
- ・ 分解したときにつなげるのが少し難しかった。
- ・ そもそも分けても単語の意味がわからない。

〈方法 A〉の効果を感じていないコメント

イ) 【調査 1】の〈方法 B〉の結果

【問 3】「〈方法 B〉が自分にあっている気がする

る」という質問項目に対して、[資料 9] の結果になった。割合は選択者数から全体 22 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。

選択肢	選択者数	割合
「とても思う」	7 名	31.8%
「どちらかという、と思う」	10 名	45.5%
「どちらかという、思わない」	5 名	22.7%
「全く思わない」	0 名	0%

[資料 9] 〈方法 B〉の調査結果 1

【問 4】「なぜそう思うのか、書ける人は書いてください」で記入されたコメントは次の通りである。実際に生徒が記入したものを提示する。以下の枠内に、効果を感じたコメント、効果を感じていないコメントを示す。

- ・ 無駄なことはずっと記憶にあるので、少し面白くしたら長期間おぼえられそう。
- ・ 話を想像するのは好き。
- ・ ローマ字読みをしたところが自分の覚え方と少し似ている。
- ・ ストーリーを作って覚えると、単語がパッとみただけで発音と意味を思い出すことができそう。
- ・ (エピソード記憶に対して) いつも数分で忘れてしまうけど、みんなで覚え方を共有したものはすごく印象に残る。

〈方法 B〉の効果を感じたコメント

- ・ 全部この覚え方だとごっちゃになって、混乱してしましそう。
- ・ ストーリーを考えるのに時間がかかる、ストーリーを考えるのが難しい。

〈方法 B〉の効果を感じていないコメント

ウ) 【調査 1】の〈方法 A〉・〈方法 B〉の比較結果

【問 5】〈方法 A〉と〈方法 B〉ではどちらが自分にあってそう?」の質問項目に対して、[資料 10] の結果になった。割合は選択者数から全体 22 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。

選択肢	選択者数	割合
方法 A	4 名	18.2%
方法 B	18 名	81.8%

[資料 10] 〈方法 A〉・〈方法 B〉の比較

エ) 【調査 1】について

「自己分析シート」の記述より、〈方法 B〉は〈方法 A〉より「自分にあっている気がする」に「そう思う」や「どちらかというと思う」を選択する生徒が全体的に多いことがわかる。「なぜそう思うのか」という理由の記述からも、〈方法 B〉の効果を感じたコメントが多いことがわかる。

これらの結果は、分解の正解が決まっている〈方法 A〉よりも、自分のオリジナルのストーリーを作り出す〈方法 B〉の方が取り組みやすく、容易に感じたのではないかと考えた。

② 記憶への効果

ア) 【調査 2】の調査基準

まず、記憶への効果については、条件が揃っていないので今回は重視することができない。しかし「英単語の正しい日本語訳が書けている」場合には正解、それ以外は不正解とみなして示す。また〈方法 A〉で扱った 5 単語 1. company, 2. researcher, 3. performance, 4. uniform, 5. recycle に関しては、「分解された単語の正しい日本語訳が書けている」場合に正解、それ以外は不正解とみなして示す。

イ) 【調査 2】の〈方法 A〉の結果

〈方法 A〉で扱った「確認シート」の 5 単語のそれぞれの正解・不正解は [資料 11] の結果になった。割合は選択者数から全体 22 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。正解者数の () は、「分解された単語の正しい日本語訳が書けている」場合の正解者数である。

単語 1-5	正解者数	割合
1. company	12 (1) 名	59.1%
2. researcher	8 名	36.4%
3. performance	5 名	22.7%
4. uniform	6 名	27.3%
5. recycle	8 名	36.4%

[資料 11] 〈方法 A〉の調査結果 2

次に 5 単語中、何単語正解したかどうか、[資料 12] に結果を示す。割合は選択者数から全体 22 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。

5 単語中〇単語、正解	正解者数	割合
5 単語中 5 単語	1 名	4.5%
5 単語中 4 単語	3 名	13.6%
5 単語中 3 単語	5 名	22.7%
5 単語中 2 単語	2 名	9.1%
5 単語中 1 単語	3 名	13.6%
5 単語全て不正解	8 名	36.4%

〔資料 12〕〈方法 A〉の調査結果 3

ウ) 【調査 2】の〈方法 B〉の結果

〈方法 B〉で扱った単語が 2 単語の者のうち、何単語正解したかどうか、〔資料 13〕に結果を示す。割合は選択者数から全体 6 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。〈方法 B〉で扱った単語が 3 単語の者のうち、何単語正解したかどうか、〔資料 14〕に結果を示す。割合は選択者数から全体 16 を割ったもので、小数第 2 位以下は四捨五入した。

2 単語中○単語、正解	正解者数	割合
2 単語中 2 単語	4 名	66.7%
2 単語中 1 単語	2 名	33.3%
2 単語全て不正解	0 名	0%

〔資料 13〕〈方法 B〉の調査結果 2

3 単語中○単語、正解	正解者数	割合
3 単語中 3 単語	9 名	56.3%
3 単語中 2 単語	1 名	6.3%
3 単語中 1 単語	4 名	25.0%
3 単語全て不正解	2 名	9.1%

〔資料 14〕〈方法 B〉の調査結果 3

ウ) 【調査 2】について

記憶への効果については、人数などの条件と、調査単語の選択の条件が揃っていないので重視することができない。しかし「確認シート」に生徒が記入したもののから、〈方法 A〉で 5 単語全て不正解の生徒が 8 名の 36.4% いるのに対して、〈方法 B〉で 3 単語全て不正解は 2 名の 9.1% と、〈方法 A〉より少ないことが分かる。

つまり、英単語からストーリーを作成して覚える〈方法 B〉は、多くの生徒が適応すると思う可能性があり、1 週間後の記憶にも効果的な影響を与えたことがわかる。ゆえに語彙のストックが比較的少ない中学生にとって、語源に着目する〈方法 A〉よりも、記憶の方法として使いやすいのではないか。その理由については、自分だけのストーリーを作成し、作成した覚え方を共有することは、それ自体がエピソード記憶となり、情景と共に英単語を思い出すことが容易であったためと考える。

(2) 個別傾向

① 抽出生徒について

これまで、【調査 1】の〈方法 A〉・〈方法 B〉の

「自己分析シート」の選択と【調査 2】の「確認シート」の全体結果を比較した。ここからは個別傾向について示す。

生徒の抽出基準は、選択の判断が生徒と教師でマッチしていない場合である。例えば「生徒は〈方法 B〉があっていると選択しているが、「確認シート」の結果からも〈方法 A〉もあっていると教師が考える」場合である。3 名の生徒 A、生徒 B、生徒 C の選択について示す。それぞれの実態や、「自己分析シート」のコメントや「確認シート」の結果を分析するために示す。

ア) 生徒 A の場合

生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語テストでは正答率が常に高い。 ・授業中のペア活動で積極的に英語を話す。
英語について	「英語は苦手」を選択。
生徒の選択	〈方法 B〉
生徒の選択理由	コメント「ストーリーを作るのが好きだから（得意とは言っていない）」
〈方法 A〉について	コメント「1 つの単語を覚えるのも大変なのにその単語の中の意味も覚えられないといけなのは僕に合っていないような気がする」
〈方法 A〉結果	5 単語中 3 単語、正解。 <ul style="list-style-type: none"> ・research に「re と search と er かな？ 再びさがし求める人で研究者とかだった気がする」と記述。 ・不正解だが performance に「per が完全にという意味なのは覚えているが全部は分からない」と記述。
〈方法 B〉結果	3 単語中 3 単語、正解。

教師の選択	〈方法 A〉・〈方法 B〉どちらも合う。
教師の選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・〈方法 A〉は自分で単語を分解し、分解したものから意味を推測することができているため。 ・〈方法 B〉は 3 単語全て正解しているため。

このように、生徒の実態と、英語に関して本人の感じる点が異なるため、生徒 A に注目した。本人は〈方法 B〉が自分にあっていると考えているが、「確認シート」の記述を見る限り、〈方法 B〉に加えて、〈方法 A〉もあっていることが考えられる。自分で分解し、分解したものから意味を推測

しているためである。これは、語幹である search が違う接尾辞や接頭辞と結合し、違う単語となって生徒 A の前に現れても、意味が全くわからないという状態を避けることができると考えた。

イ) 生徒 B の場合

生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語テストでは正答率が 8 割以上である。 ・定期考査の結果も中間層の上位に位置する。 ・保健体育が好きである。
英語について	「英語は苦手」を選択。
生徒の選択	〈方法 A〉
生徒の選択理由	コメントなし
〈方法 B〉について	コメントなし
〈方法 A〉結果	5 単語全て不正解。 <ul style="list-style-type: none"> ・不正解だが research に「分解して re の部分が再びという意味、ということだけ覚えている」と記述。 ・research 以外の 4 単語は、全く思い出せないマークとして設置した「○」を示した。
〈方法 B〉結果	3 単語中 3 単語、正解。 <ul style="list-style-type: none"> ・scream に「叫ぶアイスクリームで覚えた。△△くんと話した」と記述。 ・customer に「宝物がトレなかったからアス、リベンジで覚えた」と記述。

教師の選択	〈方法 B〉
教師の選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・〈方法 B〉で、自分で作成したストーリーまで記述したため。 ・ペア活動の相手や、相手が考えたストーリーも記述したため。

生徒 B は生徒 A 同様に、生徒の実態と、英語に関して本人の感じる点が異なるため注目した。本人は〈方法 A〉が自分にあっていると考えているが、「確認シート」の記述を見る限り、〈方法 B〉の方があっていると考えられる。なぜなら、「確認シート」に「scream は叫ぶ」と正解の日本語訳だけを記述するのではなく、自分やペアの生徒が作成したストーリーまで記述したためである。〈方法 B〉を実践した 1 週間後であっても、エピソード記憶として、ペアの相手や共有した内容を覚えているため、〈方法 B〉が生徒 B に合った方法だと

考えた。

ウ) 生徒 C の場合

生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語テストでは正答率が 7 割程度である。 ・休み時間は教室で読書する。 ・理数系科目に得意意識を持つ。
英語について	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語は苦手」を選択。 ・コメント「読むことは好き」
生徒の選択	〈方法 A〉
生徒の選択理由	コメント「ラテン語からの語源がどのようにつながって構成されているのか知ることができて、とても面白かったから」
〈方法 B〉について	コメント「想像するのはあまり得意ではないので僕にあっていない気がした。しかし、みんなのストーリーは面白くて勉強になった」
〈方法 A〉結果	5 単語中 1 単語、正解。 <ul style="list-style-type: none"> ・不正解だが performance に「perform = 披露する *ce=人 マジシャン」と記述。
〈方法 B〉結果	3 単語中 3 単語、正解。 <ul style="list-style-type: none"> ・scream に「アイスクリーム(scream)が落ちて、キャー (叫ぶ)」と記述。 ・whale に「whale(くじら)が増え～(whale)」と記述。

教師の選択	〈方法 B〉
教師の選択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・〈方法 B〉は 3 単語全て正解しているため。 ・自分で作成したストーリーを 1 週間前と全く同じ書き方で記述したため。

生徒 C は「理数系科目に得意意識を持つ」ため、〈方法 A〉と理数系の考え方との関係に注目した。本人は〈方法 A〉が自分にあっていると考えているが、「確認シート」の記述を見る限り、〈方法 B〉の方があっていると考えられる。なぜなら、生徒 C は、生徒 B 同様に「確認シート」に「scream は叫ぶ」と正解の日本語訳だけを記述するのではなく、自分が作成したストーリーを記述したためである。「(ストーリーを) 想像するのはあまり得意ではない」と記述があるが、作成したものは完璧に覚えて、記述した。これは頑張っってストーリーを考え、考えたこと自体がエピソード記憶につな

がり、単語の意味を思い出させたのだと考えた。

〈方法 A〉に関して **performance** に生徒 C は「ce=人」と誤って記述した。他の単語で出てきた接尾辞「er=人」と意味が混乱していることがわかる。これは分解した単語とその意味が頭の中で整理できていないからだと考えられる。

これらのことから、方法を実践した 1 週間後であっても、〈方法 B〉での内容を正確に覚えているため、〈方法 B〉が生徒 C に合った方法だと推察する。

② 個別傾向から見出された内容について

個別傾向から考えたことは 2 点ある。記憶の方法についての選択の判断は、必ずしも生徒と教師でマッチしないことと、適応する方法は 1 つではないことである。

まず、選択の判断が生徒と教師でマッチしていないことについてである。生徒 A、生徒 B、生徒 C のように、生徒の方法の選択と、教師の方法の選択がマッチしないことがあった。これは「教師の選択が正しい」という意味ではなく、生徒と教師とでは見方が異なるということが分かる。生徒は、これまでに教師に評価されてきた経験から、「教師の選択判断が正しい」と考えてしまう傾向がある。そのため、一つの参考意見として受け入れることができるように、教師の選択を伝えるときには配慮が必要である。

次に、適応する方法は 1 つではないことについてである。生徒 A のように生徒が自己に適応する方法は単一ではなく、2 つ、3 つあると考える。「自己に適応する方法はこの方法しかない」と決めつけると、記憶方法の発展や新たな方法の発見につながりにくいと考ええる。そのため、授業の際には、常に複数を提示しながら、同時に効果的な方法に順位付けをしたり、場面ごとに方法を選択する提案を示したりしながら、生徒が自分で自覚的に選択できるような工夫をする必要がある。

(3) 英単語の記憶の方法の調査結果から

今回、〈方法 A〉・〈方法 B〉を生徒 22 名が試行した。実践することで、生徒が自己に適応する方法を選択することについての意識を持たせることができたのではないだろうか。なぜなら、2 つの異なる方法を比較して、それぞれの効果や課題を実感したことが「自己分析シート」からもわかるためである。

今回、生徒には「確認シート」の結果を示していない。そのため生徒は、試行したときの感覚的なもので「自己分析シート」の選択をした。多くの場合、生徒は感覚的に、これまでの方法を活用

している傾向がある。これは、英単語の記憶だけではなく、理科や社会科などでも活用している経験的なものが反映している。こうした感覚的、経験的な記憶の仕方には、そこに意味や論理を見出して適応している場合は決して多くはないのではなかろうか。そうした、何となく人に教えられた通りに感覚的に行う記憶に対し、〈方法 A〉のような論理性や情報相互の関係性を意識した学習体験をする必要がある。そうすることが、今後何かを選択・思考・判断する場面で、自分で考えたり、論理を見出したりすることになるからだと考える。ゆえに、自己に適応する方法を分析できるようにするために、「自己分析シート」は「確認シート」の結果を見て再度分析できるようなものにしたい。

4 研究のまとめ

(1) 〈方法 A〉・〈方法 B〉の効果と課題

① 〈方法 A〉の効果と方法の提案工夫として

〈方法 A〉は、それぞれの単語に有機的な関連性を持たせながら学べる点が特性だと考えられる。全く新しい語を覚えるよりも、既存の語を組み合わせる意味を考える方が効率的である。ある程度単語のストックがある学習者は、単語と単語を関連させ、頭の中を整理することができるため、〈方法 A〉が適応すると考える。しかし、本調査対象の中学生は単語のストックが高校生や大学生よりも少ない。また中学校で扱う単語は語幹となるものが多く、分解することができない単語も多く存在する。そのため、〈方法 A〉のような「語源に着目する方法」を中学生に提案するときには工夫が必要であろう。

今後は単語を分解して、接頭辞、語幹、接尾辞全ての意味を考えさせる方法ではなく、より有効的な「先頭について方向や位置関係などを表す接頭辞」や「最後について品詞や追加機能を表す接尾辞」に着目させる方法を提案したい。実際に本調査で、生徒の中に「re=再び」や「per=完全に」と接頭辞の意味のみを思い出して書いた者もいた。中学生という段階においてはどのような提案の仕方がより有効的なのか考える必要がある。

② 〈方法 B〉の効果と方法の提案工夫として

〈方法 B〉は、自分だけの覚え方を考えることで、記憶に残りやすく、忘れにくい点が特性だと考えられる。本調査の結果からも、〈方法 A〉より〈方法 B〉の方が、正答率が高いことが分かる。これは、ストーリーを作って共有することが、エピソード記憶となり、覚えたときの情景やペアの

相手などが、単語の意味を思い出す契機となったと考える。しかし、本調査では、〈方法 B〉の実践 1 週間後に記憶状態を確認し、実習生という異質で非日常的な存在が授業をした。これが、情景や英単語を思い出し、結果につながるという効果の要因となった可能性がある。ゆえに、〈方法 B〉で覚えた単語が 1 週間後だけでなく、1 ヶ月後、2 ヶ月後も覚えているのかどうか調べる必要がある。

また、ある生徒が「全単語を〈方法 B〉で覚えるとごっちゃになって、混乱してしましそう」というコメントをした。〈方法 B〉が自己に適応すると考えた生徒が、これから出会う全ての英単語を〈方法 B〉で覚えることは、困難なことも予想できる。なぜなら、発音や意味が類似する単語を正確に区別できないと、間違った意味を思い出してしまうためである。来年時の研究では記憶を確認する時期などにも着目していきたい。

(2) 本調査から見えてきたこと

① 学習方法の選択について

本調査を通して、学習の方法の選択体験の不足がポイントとして挙げられると考えた。今回、「初めて単語の覚え方などを学んだ」というコメントがあった。このコメントからも、現代の一律かつ、一方的な学習が、英単語の記憶方法にまで影響を与えて、自己に適応する方法を知らないまま、単一の方法で記憶を行っていることが分かる。自己に適応する方法を模索するために、生徒は「自分がどのように思考をするのか」、「複数の記憶方法を試したときに何を考えたのか」などを言語化して自覚・意識する必要があると考えた。このような経験をすることで、英単語の記憶方法だけでなく、多様な分野での自己の学習の方法について考え、選択する思考ができると考えた。

② 今後の研究の課題

教師として、今後の研究は、生徒により多くの選択肢が与えられるように、次のことを行いたい。

- ・複数の英単語の学習・記憶方法を研究すること。
- ・生徒が「思考をどう構築するのか」自身で考えられるような「自己分析シート」を作成すること。

また、今回は事前調査として、生徒がそれぞれどのような考え方をするのか、生徒理解が不足していた。生徒 1 人 1 人に適応する方法を提案するために、より深い生徒理解をする必要があると考えた。例えば、学習と日常生活との関連、通常の英語の授業での言動などで生徒理解をする。このように生徒理解をすることで、既に適応した方法に類似する「新たな方法」を生徒に提案し、生徒

の学習方法を多様なものにすることができる。

5 おわりに

今回は、生徒の自己に適応する学習方法に意識を向けることを意図し、英語学習における英単語の習得を対象とした 2 つ記憶方法の調査を行った。今後は、複数の記憶方法の効果について先行研究をもとにして分析し、生徒が自己に適応する方法を意識するような思考につながる「自己分析シート」を作成していく。それをもとに、実践授業した方法の効果や課題を研究していく。

主な引用・参考文献

- 一般社団法人教科書協会、『Here We Go!』、光村図書、2022 年、Unit5-6
 清水健二・すずきひろし、『イラストでわかる中学英語の語源辞典』、図書印刷株式会社、2020 年、
 清水健二・すずきひろし、『英単語の語源図鑑』、2022 年、ベクトル印刷株式会社
 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会、『教育課程部会における審議のまとめ』、令和 3 年 1 月 25 日、p.12
 文部科学省、『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）』、平成 29 年 3 月
 ヘルマン・エビングハウス、望月衛、『記憶について-実験心理学への貢献-』、1978 年、誠信書房
 湯舟英一、『長期記憶と英語教育(1) -海馬と記憶の生成、記憶システムの分類、手続記憶と第二言語習得理論-』、2007 年、東洋大学人間科学総合研究所紀要 第 7 号、pp.147-162